



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 平成28年度昭和大学卒業式・学位記伝達式が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

平成28年度昭和大学卒業式が3月9日(木)午前10時からパシフィコ横浜の「国立大ホール」において盛大にかつ厳粛に執り行われました。数日前から天候不順で心配でしたが、当日は快晴に恵まれ、富士山が神々しく見えて、卒業生の門出を祝うにふさわしい式典日和でした。今年度の卒業生は、医学部(85回生)130名、歯学部(35回生)94名、薬学部(49回生)162名、保健医療学部(12回生)164名の合計550名で、広い会場は着飾った卒業生と大勢の父兄ならびに関係者の出席で埋め尽くされました。



式は昭和大学管弦楽団の演奏で厳かに開会しました。校歌斉唱に引き続き、各学部の総代に小出学長から学位記が授与され、歯学部総代を茂木柚実香さんが務めました。小出学長の告辞と小口理事長の祝辞に引き続き、各種表彰が執り行われました。歯学部からは上條賞を茂木柚実香さん、同窓会賞を増田絵美奈さん、北村直己君、林 千陽さんの3名、上條旗ヶ岡賞を剣道部の大澤昂史君、そして最優秀チューデント・インストラクター賞を金箱志桜都君が受賞しました。父兄会からの記念品贈呈、在校生代表の送辞と卒業生代表からの答辞に引き続き、歯学部の井上結衣さんのリードで昭和大学関係者全員が「昭和大学宣言」を高らかに唱和しました。卒業の歌(旅立ちの日に)斉唱のあと、恒例となった応援指導部による卒業生への力強いエールがあり、会場全体が熱気に包まれる中閉会しました。

引き続き午後12時45分から、学部ごとに会場を移し、パシフィコ横浜の「アネックスホール」において、歯学部学位記伝達式が執り行われました。こちらにも大勢の父兄の参加がありました。宮崎歯学部長、小原同窓会長の挨拶に引き続き、卒業生全員に宮崎歯学部長から学位記が伝達されました。引き続き学生表彰、記念品贈呈および花束贈呈を行い、上條学生部長の挨拶で午後1時半に閉会しました。

伝達式における学生表彰者は以下の通りです。  
歯科医学生賞: 甲山尚香, 教育委員長賞: 内田淑喜,  
学生部長賞: 熱田菜夏, デンツプライシロナ・スチュー

デントアワード: 松本晃之輔, 三橋 渉, モリタ補綴学賞: 飯泉嘉基, フィリップス賞: 堅田凌悟, ストロマンアワード: 吉野剛史(敬称略)

卒業生におかれては、卒業式の学長告辞や理事長祝辞でも触れられた「至誠一貫」の精神を生涯忘れることなく、そして、伝達式で配布された卒業までのロードマップとコンピテンシーを折りに触れては目を通し、本学の卒業生であることに誇りをもって今後各方面で活躍されることを祈念します。



## 大学院修了式が開催されました

大学院運営委員長 山本松男

3月17日(金)に上條講堂で昭和大学大学院修了式が行われました。アカデミックガウンと帽子を着用し、昭和大学管弦楽団メンバーによる「ディベルティメントK. 138より第1楽章」の演奏の中、荘厳な雰囲気での式が始まりました。今年度の歯学研究科の修了生は25名(早期修了者2名含む)で、医学研究科35名、薬学研究科3名、保健医療学研究科博士前期課程17名、後期課程4名とともに小出学長から学位記が授与されました。平成28年度上條賞は、黒田沙さん(歯科放射線医学)に授与されました。続いて、修了生を代表して嘉手納未季さん(障害者歯科学)が昭和大学宣言を行い、修了生および昭和大学関係者全員で唱和しました。昭和大学グリークラブのリードで校歌を斉唱し修了式が終了しました。その後、研究科ごとに学位記伝達式が行われました。歯科医師になるまでの勉強は、明確な出題基準のある問題について正答を答えるもので、知識ベースの能力がものをいいます。しかし、歯科医になったあと臨床や研究の現場では自らが考え、判断をして、切り開いていかなければいけないことばかりです。学位を取得するまでの経験は、必ずや有形無形に今後の活動に役立つものと確信をしています。おめでとうございます。



## 選抜Ⅱ期入試が行われました

入学支援課 鳥山ちひろ

平成29年度歯学部選抜Ⅱ期・センター利用Ⅱ期入試が2月25日(土)に、旗の台キャンパスにて、薬学部、保健医療学部と3学部合同で実施されました。歯学部は16号館、薬学部・保健医療学部は4号館が試験場となり、幸い当日は天候にも恵まれ、各試験場とも特に大きなトラブルもなく、各学部の教職員の方々のご協力のもと無事に終了することができました。今年度の志願者数は、選抜Ⅱ期(約8名募集)が188名(前年度174名より14名増)、センター利用Ⅱ期(約3名募集)が選抜Ⅱ期との併願を含む21名(前年度5名より16名増)と、たくさんの方からの出願がありました。そして、2月28日(火)に選抜Ⅱ期・センター利用Ⅱ期の合格者を発表いたしました。多くの優秀な学生の入学と歯学部の発展がますます期待されます。これをもちまして、平成29年度入学試験日程が終了となります。ご多忙の中、ご協力を賜りました教職員の皆さまには、心から厚く御礼を申し上げます。次年度も何卒宜しく願いいたします。

## D2 オリエンテーションが実施されました

口腔解剖学講座 中村雅典

3月1日にD2オリエンテーションが開催されました。新年度のD2は総勢100名です。午前中は宮崎歯学部部長の挨拶に始まり、美島教育委員長と上條学生部長からは学部での学則をふまえた学業ならびに生活上での全体的な注意点について、保健管理センター、図書館、学生課ならびに学務課からの説明がありました。次いで、荏原警察署による交通安全・防犯講習会が行われました。午後はD2のユニットコーディネーターから各ユニットでの注意点の説明の後、本学教育の特徴であるアクティブラーニング・コミュニケーション演習が片岡教授の指導の基に行われました。

富士吉田と旗の台での教育の相違などで出遅れることなく、各学生にとって有意義で実りある学部生活を過ごしてもらいたいと祈念しています。

## 謝恩会に出席しました

教育委員長 美島健二

昭和大学歯学部第35期生の謝恩会が、平成29年3月9日(木)に帝国ホテル孔雀西の間で開催されました。昨年同様、謝恩会に先立ち、卒業式、学位伝達式がパシフィコ横浜で行われましたが、パシフィコ横浜の前には花束を渡そうと待ち構える多くの在校生が集まっていました。クラブ活動などでお世話になった先輩に感謝の意を伝えようと集まる景色は恒例ですが、いつ見ても感動を与えるものがあります。謝恩会では、卒業生とご父兄の拍手に迎えられ、小口理事長、小出学長、片桐名誉学長に続いて、宮崎歯学部部長を先頭に歯学部教員が入場しました。卒業生

謝恩会委員長の帆足さんより開会の宣言があり、御来賓の小口理事長、小出学長、片桐名誉学長、與儀父兄会長から心温まる御祝辞を頂戴しました。宮崎歯部長からは卒業生に対する激励がなされ、榎病院長の乾杯の音頭で祝宴に入りました。続いて、本年度より同窓会長に御就任なられた小原歯学部同窓会長や教育委員長の挨拶があり、恒例になったランキング発表では、「授業のわかりやすい先生」など多くの教員が表彰され盛り上がりを見せていました。会場での記念撮影のあと、卒業生より御父兄への感謝の念が伝えられ、盛会裡に閉会となりました。謝恩会委員長の帆足さんをはじめ企画・進行に携わった卒業生の皆さんお疲れ様でした。卒業生全員の進路に幸多からんことを祈っています。

## 第8回iOSCAを実施しました

iOSCA委員長 山本松男

D5 iOSCA (integrated Objective Structured Clinical Assessment)を、3月9日(本試)、3月16日(追再試)に歯科病院で実施しました。今回のiOSCAは本学では8回目の実施でした。一年間の臨床実習で身につけた臨床的能力の到達度を、本学部のコンピ



テンシーに沿って評価しました。コンピテンシーとは本学歯学部学生が卒業までに身につけてほしい「臨床能力」のことで、これを目標に掲げて教育を行う事をアウトカム型指導と呼んでいます。例えば感染根管処置を想定すると、綿栓を交換するという行為自体は、従来の通りSBOsにも明確に書くことのできる知識や技術の要素に分解できます。しかしiOSCAでは「綿栓を交換しなさい」という実技試験はおこないません。前回までのカルテが準備してあって、臨床経過を把握した上で今回は何をすべきか受験生が考え、「交互洗浄と綿栓交換が必要」と判断し、治療法の行動をとれるかどうか、まさに歯科医療実践の能力が身についたかどうかを評価します。そのように判断して行動できるためには、知識と技術が上手くリンクしてその個人に定着していなければいけません。それが「臨床能力」になります。D5での臨床実習は、知識や技能が統合され臨床能力に結実することを期待しています。医学部教育では、臨床実習終了時の評価を必須化する準備が着々と進行しており、平成32年度には全国の全ての医学部が正式に実施を行います。歯学部も共用試験の形で完全実施の方向で議論が進められています。本年は文部科学省高等教育局医学教育課から視察にみえられご指導を賜りました。外部評価として、城南七歯科医師会の代表の先生方からもご指導とアドバイスをちょうだいいたしました。誠にありがとうございました。ご協力を頂きました教職員やTA(大学院生)にも深く感謝を申し上げます。

## 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 平成28年度シンポジウムが開催されました

歯学部研究活動委員長 上條竜太郎

去る3月4日、昭和大学歯学部が5カ年計画で進めている「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」および「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」の2研究プロジェクトの平成28年度合同シンポジウムが、昭和大学歯科病院にて開催されました。これらの研究プロジェクトは、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として文部科学省より支援を受けて進められているものです。

シンポジウムの開催は、「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」プロジェクトが今回で5回目、「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」プロジェクトが3回目となりました。宮崎歯学研究科長によるシンポジウム開会の挨拶に続き、慶應義塾大学医学部長の岡野栄之教授による「幹細胞技術と遺伝子改変霊長類を用いた疾患・創薬の革新的研究」、九州大学大学院歯学研究院口腔常態制御学講座口腔細胞工学分野・九州大学大学院歯学研究院長の平田雅人教授による「Serendipityを求めて」の2題の特別講演が行われました。岡野教授には、iPS細胞による脊椎損傷モデル動物の機能回復や、慶應義塾大学病院の新設に伴う新たな取り組みなど、自身の研究成果を交えながら解説していただきました。また、平田教授には、Serendipityを受け入れるためには日々の努力と準備、智慧や心が必要であるという、これからの若手研究者に対するエールをいただき、また、ご自身のこれまでのPRIPの機能解析からosteocalcinの生体への応用まで、幅広い研究内容をご紹介いただきました。引き続き行われた、各プロジェクトの研究分担者による研究成果報告会では、「次世代型顎口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」の14課題、「口腔機能維持・回復のための集学的研究開発拠点の形成」の15課題のこれまでの研究成果がポスター発表され、活発な議論と意見交換が行われました。

## 大学院研究内容中間報告会を行いました 大学院運営委員長 山本松男

3月18日(土)および25日(土)に、歯科病院6階第2臨床講堂で、両日合わせて24名の方の大学院研究内容中間報告会を開催しました。学審査を受けるおよそ10ヶ月前程度を目安に研究成果の進捗を見直す機会にしています。学術雑誌等への投稿原稿をまとめる上でも、追加や修正をすべき内容が明らかになる場合もあります。過去を振り返ると、中間報告の段階で研ほぼ一区切りがついていて、早期の投稿

に加えて、もう一步頑張れと背中を押されて、卒業までに2本目の論文アクセプトを実現した学生もいました。主査・副査候補の教員は、当該の研究の共著者ではありませんので、多くの学生が研究内容をわかりやすくプレゼンする必要があります。

学会等での発表では研究成果の深い内容を説明し、中間報告ではさらに研究の意義などをわかりやすくプレゼンしなければいけないこととなります。学位取得を目指すものにとっては、大変良い鍛錬の場になっているものと思われます。学位取得に向けて、最後の踏ん張りを期待します。

## 慶熙大学を訪問しました

国際交流センター長 宮崎 隆

本学は韓国ソウルに本部を置く慶熙大学と武重学長時代の平成12年に姉妹校の協定を締結しています。慶熙大学は文系・理系・医療系など25



学部を要する韓国を代表する私立総合大学です。医療系では医学部、薬学部、看護科学部のほかに、伝統医学の韓医学部が独立しています。

その後実質的な交流が行われていませんでしたので、学生レベルの交流を推進するために、去る2月9日に国際交流センター長として、橋本准教授、マイヤース講師、平泉講師、三浦係長と一緒に慶熙大学を訪問しました。まず歯学部を訪問し、Park学部長ほかと意見交換をしました。ソウルにはソウル大学歯学部、延世大学歯学部と3つの歯学部がありますが、いずれもレベルが高く、日本の歯科大学・歯学部とも活発な交流をしているようでした。引き続き、医学部を訪問し、Joo-Ho医学部長、Jeong看護学部副学部長ほかと意見交換をしました。医学部も海外選択実習を推進しているようで、本学での受入れに関して高い関心がありました。

その後、国際交流部のPark所長にキャンパス内を案内してもらいました。広大なキャンパス内には芸術的な建物が多くあり、とりわけ大学のシンボルである「平和の殿堂」はフランスのノートルダム大聖堂のような外観で、東洋一高い大学講堂です。内部は4500名を収容できるホールになっており、大学式典のほかにコンサートや文化行事に利用しているとのことでした。大学全体として国際化を進めており、設備の整った留学生用宿舎も見学しました。

今後実質的な学生交流を推進したいと考えています。

## 上條旗ヶ岡賞を受賞しました

歯学部6年 大澤昂史

昭和大学第35期生大澤昂史と申します。この度は上條旗ヶ岡賞をいただき、大変光栄に思っております。私は昭和大学歯学部に入学してからの6年間剣道部に在籍していました。中学生から剣道をやっていましたが、初めて剣道部に参加させていただいた時、レベルの高さに驚いたことを今でも覚えています。剣道部の6年間は素晴らしい先生先輩方や仲間にも恵まれることができました。仲間とともに励まし合い、苦難を乗り越えたことは自分の中で大きな財産となりました。



これまでの人生における三分の一をこの昭和大学歯学部で過ごさせていただきました。振り返りますと、多くのことを経験でき、時には挫折し、時には達成できた6年間でありました。この6年間は人として大きく成長させてくれたと感じています。こうしてやってこられたのも先生先輩方の支援、友人との切磋琢磨そして家族の支えがあってこそでした。心から感謝しております。そしてこの感謝を忘れずに、昭和大学歯学部卒業生として胸を張って日々精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 上條賞(大学院)を受賞しました

歯学研究科(歯科放射線医学) 黒田 沙

3月17日昭和大学大学院修了式におきまして、上條賞を賜りました。身に余る評価を頂き、大変光栄に思っております。



私の大学院における研究テーマは非侵襲的な検査方法である「顎関節部のMRIの信号の解析」です。もともと私は歯科放射線医学分野に興味がありました。正常解剖はもちろん、病変部が画像上でどのように見えるのか、またなぜそのような変化が起きるのか、人間の体にはまだわからない事が多く存在します。そういった疑問を解明するための研究に自ら携わりたいと思って入学してから4年間、時に山あり谷ありでしたが、多くの方々に支えて頂きながら、学会発表や論文など様々な経験をする事が出来ました。

研究を真摯にご指導下さった荒木和之先生、多様な視点からアドバイスを下さった主査、副査の先生方、歯科放射線科に入局させて頂いた岡野友宏先生、そしていつも見守ってくれた歯科放射線科のスタッフ

の皆様がこの場をかりて心より感謝申し上げます。今後は大学院での経験をふまえて精進するとともに、長い間お世話になった昭和大学に恩を返すことが出来るよう、微力ながらも発展に貢献していきたいと思っております。

## 日本歯科医学会会長賞を受賞しました

小児成育歯科学 井上美津子

平成28年度日本歯科医学会会長賞の授賞式が平成29年2月20日に市ヶ谷の歯科医師会館にて行われました。日本歯科医学会の第95回評議員会において授賞式は執り行われ、井上孝総務理事の功績発表、住友雅人会長のご挨拶に続いて、研究部門3名、教育部門3名、地域歯科医療部門1名の受賞者に住友会長から顕彰状および勲章が授与されました。私は研究部門からの受賞で、トップバッターで住友会長から顕彰状と勲章を授与していただきました。クリスタルの顕彰状を手にし、ずっしり重い勲章を首に掛けていただいて、受賞の実感がわいてまいりました。会長賞の研究部門は、歯科医学・医術の研究に成果を収め、歯科医学・医療の向上に特に顕著な貢献があったと認められる者に与えられる賞ですので、このような賞をいただいたことを非常に光栄に思います。私は昭和大学歯学部からの推薦でしたが、他の先生方はすべて所属学会からの推薦でした。受賞理由も、昭和大学における小児歯科保健と母子保健の臨床・研究が評価されたものでした。昭和大学ではすでに多数の先生方が受賞されており、退職した教授に積極的な推薦のご配慮をいただいている宮崎学部長をはじめとした諸先生方に心より感謝申し上げます。



## 認定医・専門医取得

広報委員長 中村雅典

大澤 淡紅子

(公益社団法人)日本口腔インプラント学会専門医

## 行事予定

広報委員長 中村雅典

4月3日(月):D3・6進級式

4月8日(土):大学院入学式

4月12日(水):入学式

## 編集後記

歯科補綴学 葎澤秀一郎

厳しい寒さから一転、春風が快い季節となりました。活気あふれる時期ですが、忙しい日々が続くと思われます。くれぐれもご自愛ください。

末筆ながら、年度末のご多忙の折、皆様から多くの記事をご寄稿いただきましたことを、この場をお借りして深謝致します。